授業科目名	アフリカの歴史と社会	単位数	2
担当教員名	朝田　郁	担当形態	単独
実務内容 （実務家教員の場合）	研究者としてアフリカで複数次のフィールドワークを実施してきた教員が、アフリカの歴史と現代社会の特質について解説する。		

「学位授与の方針」との関係

アフリカ社会の歴史と現在を学ぶことで、そこで暮らす人々と私たちが、共に地続きの世界を生きていることを理解し、学位授与方針である「共生社会の創造に貢献する姿勢」を身に付けることを目指す。また、現代的な共通課題について知ることで、「自律的な課題探究能力」の習得も目標とする。

授業の到達目標及びテーマ

（１）アフリカの歴史に通時的に触れるとともに、現代的な共通課題についても理解する。
（２）アフリカと他の地域を結んでおこなわれてきた、地域間交流のダイナミクスを学ぶ。
（３）植民地的歴史観を相対化する一方で、アフリカを弱者に描く姿勢からも距離を置く。
（４）アフリカの人々が、私たちと同時代かつ地続きの世界を生きていることを実感する。
（５）報道で耳にするアフリカの話題について、背景を多角的にとらえる力を身に付ける。

授業の概要

みなさんの持つアフリカのイメージは、どのようなものでしょうか。アンケートを取ると、未開社会、貧困、野生動物といった言葉が頻出します。日本のテレビや新聞などで、アフリカ社会が扱われることは少なく、ニュースでも全報道量の２％に過ぎないという研究があります。なので、アフリカの人々が歩んできた歴史や、また現在暮らしている社会について、思い浮かべるのは難しいかもしれません。

この授業では、新しい視点で編まれた「アフリカ史」の教科書を読み進め、文明の黎明期から現在までの流れを学修するとともに、現代アフリカ社会を形作る、多様性や共通課題にも注目します。さらにスクーリングでは、アフリカ社会に暮らす人々が私たちと同時代を生きていること、またこれらの地域が私たちの社会と地続きの世界であることを、身近な事例を読み解きながら学びます。

授業計画

第１回：アフリカの自然と生態環境 ―アフリカ史の舞台・文明の曙
第２回：流域社会の形成（１）―コンゴ川世界とザンベジ・リンポポ川世界
第３回：流域社会の形成（２）―ニジェール川世界とナイル川世界
第４回：人々の移動とネットワーク（１）―サハラ交渉史
第５回：人々の移動とネットワーク（２）―インド洋交渉史
第６回：大航海時代とアフリカ ―大西洋交渉史
第７回：植民地支配 ―ヨーロッパ来襲・支配の方程式
第８回：抵抗するアフリカ ―抵抗の主体とパン・アフリカ主義・ナショナリズム
第９回：アフリカ諸国の独立 ―独立の光と影
第１０回：アフリカ社会の苦悩 ―20 世紀末のアフリカ
第１１回：成長するアフリカ社会 ―21 世紀のアフリカと未来
第１２回：聖なるものと人々のくらし ―アフリカの豊かな精神文化
第１３回：アフリカン・アートとメディア ―カルチャーとコミュニケーション

第１４回：アフリカ社会が抱える課題 ―現代アフリカ経済と紛争 第１５回：世界・アフリカ・日本 ―地球社会の一員として 定期試験
スクーリングでの学修内容 教科書で学修したアフリカ史をふまえて、現代アフリカ諸国が抱える共通課題や、社会が内包する多様性を学ぶ。講義では、信仰を通して見たアフリカ社会（第１２回）、アートとコミュニケーションを軸にしたメディア状況（第１３回）、２０世紀末から現在のアフリカ経済の変動と紛争問題の背景（第１４回）、国際社会におけるアフリカ諸国のプレゼンスと日本との関係（第１５回）をテーマとし、身近な事例を通して理解を深める。
教科書 　宮本正興・松田素二 編（２０１８）『改訂新版 新書アフリカ史』講談社
参考文献 （１）松田素二 編（２０１４）『アフリカ社会を学ぶ人のために』世界思想社 （２）北川勝彦・高橋基樹 編著（２０１４）『現代アフリカ経済論』ミネルヴァ書房 （３）松田素二・津田みわ 編著（２０１２）『ケニアを知るための 55 章』明石書店 （４）明石書店から刊行されている『～を知るための…章』（エリア・スタディーズ）
学生に対する評価 スクーリング評価（２５％）、レポート評価（２５％）、科目修得試験（５０％）を総合して評価する。